

Top Commitment

トップコミットメント



2012年よりスタートした新中期計画では、「TDKのコア技術を研ぎ澄まし、新たな社会インフラの進化に貢献する」ことを基本方針として掲げています。本計画では、次世代情報通信市場とエネルギー関連市場を最重点市場とし、電子部品メーカーである当社は、クラウドコンピューティング、スマートグリッドや環境対応車など、今後の成長が期待できる幅広い分野で力を発揮できると考えています。当社の強みの一つである磁性分野においても、2012年を「磁石元年」と位置付け、レアアースを用いない磁石開発を目指し、より一層尽力していきます。さらに、常に新しい事業分野への挑戦を続け、社会課題の解決を通して持続可能な社会実現に貢献していきます。

世の中にまだ存在しない独自の価値を、素材レベルから創り上げる――。私たちTDKは、その独創の精神を、創業以来変わらぬ「DNA」として受け継ぎながら、世の中の要求に合致した製品の創出、すなわちお客様視点に立ったモノづくりを追求してきました。2010年からは、そのTDKのモノづくり精神を尊重し、伝承するための試みの一つとして「モノづくり伝承塾」を実施しています。この伝承塾では、グローバル競争時代を生き抜くマザー

工場の役割、使命を認識し、モノづくりの一貫した軸を構築できる次期リーダーを育成することを目標として、「素材から製品までを一貫して見通したモノづくりを行うこと」、「品質検査に頼るのではなく、製造の過程そのものに品質保証を組み込むこと」などを彼らは学び、現場の従業員に指導しています。そうしたモノづくりの精神を全社で共有することで、お客様へご満足いただける製品を効率よく生み出し、差異化を図っていくことが、競争力を強化する上でも必要不可欠だと考えています。

2011年に発表した環境ビジョン「TDK環境活動2020」では、2020年度までに、TDKグループの生産活動におけるCO₂の排出量を、TDK製品の使用によって削減されるCO₂の貢献量で、プラスマイナスゼロとする電子部品業界初の「カーボンニュートラルの達成」に向け、着実に歩みを進めています。また、業界団体を通じて、電子部品の環境貢献量の「見える化」を進めています。この基準を標準化し、電子部品の環境への貢献を明確にしたいと考えています。

さらに、社会からの要請や期待の変化に応えるため、2011年秋には、企業としての行動指針である「企業倫理

綱領」の改定を行いました。改定にあたっては、「持続可能な社会の創造に向けて、高い倫理観を持って責任を果たしていくことを社会に宣言し、顧客や取引先を含むサプライチェーンを通じて、企業倫理の徹底とCSRを推進していくこと」、「TDKグループの従業員一人ひとりが共有すべき価値観である社是の実践を通じ、グループ全体の結束を固め、さらなる価値向上を図ることが大切であること」を骨子としています。今後も、この新たな企業倫理綱領を従業員一人ひとりにより深く浸透させていきたいと考えています。

従業員一人ひとりの「個」を尊重する社風が、当社の特長の一つです。今後の未来を担い、自分なりの「夢」を抱き、失敗を恐れることなく「勇気」を持ってチャレンジを続けていってほしい。その積み重ねがステークホルダーの皆様からの「信頼」につながり、ひいてはTDK全体への「信頼」をも生み出していくはずです。

本冊子では、私たちが積み重ねてきたチャレンジの一端をご紹介します。ぜひご一読いただき、ご意見をお寄せください。

創業から続く
独創の精神を受け継ぎながら、
モノづくりを通じて、
社会的課題の解決に貢献する。
その実現を目指し、
今後もチャレンジを続けていきます。

TDK株式会社 代表取締役社長

上 釜 健 夫